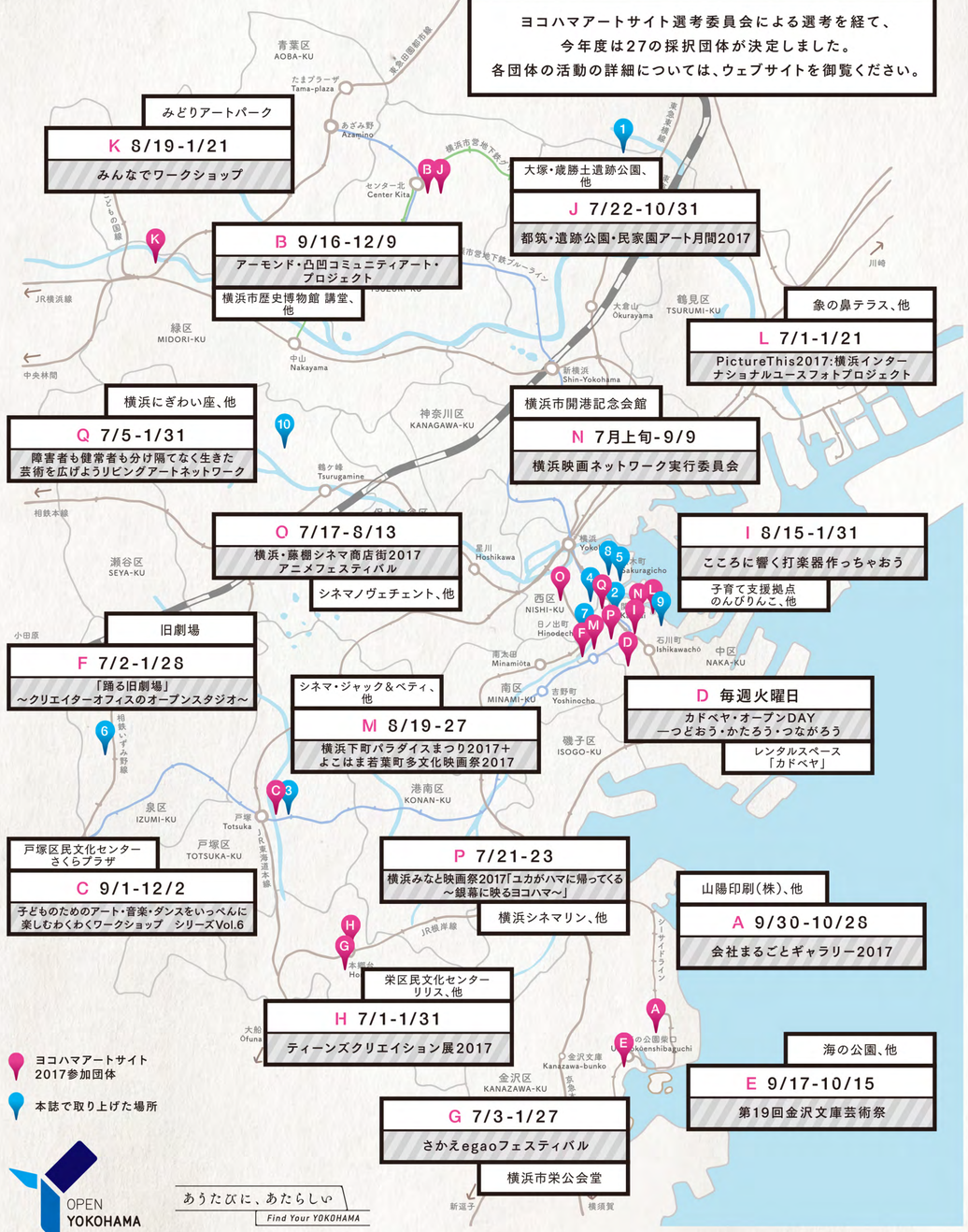
YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2017参加団体による
7月～9月のイベントをピックアップ。ぜひ、おでかけの予定に加えてほしいものばかりです。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト選考委員会による選考を経て、
今年度は27の採択団体が決定しました。
各団体の活動の詳細については、ウェブサイトを御覧ください。



みどりアートパーク
K 8/19-1/21
みんなでワークショップ

大塚・歳勝土遺跡公園、他
J 7/22-10/31
都筑・遺跡公園・民家園アート月間2017

B 9/16-12/9
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト
横浜市歴史博物館 講堂、他

象の鼻テラス、他
L 7/1-1/21
PictureThis2017:横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

横浜にぎわい座、他
Q 7/5-1/31
障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を広げようリビングアートネットワーク

横浜市開港記念会館
N 7月上旬-9/9
横浜映画ネットワーク実行委員会

O 7/17-8/13
横浜・藤棚シネマ商店街2017 アニメフェスティバル
シネマノヴェチェント、他

I 8/15-1/31
こころに響く打楽器作っちゃおう
子育て支援拠点 のんびりんこ、他

旧劇場
F 7/2-1/28
「踊る旧劇場」～クリエイターオフィスのオープンスタジオ～

シネマ・ジャック＆ベティ、他
M 8/19-27
横浜下町パラダイスまつり2017＋よこはま若葉町多文化映画祭2017

D 毎週火曜日
カドベヤ・オープンDAY
―つどおう・かたろう・つながろう
レンタルスペース「カドベヤ」

戸塚区民文化センター さくらプラザ
C 9/1-12/2
子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに楽しむわくわくワークショップ　シリーズVol.6

P 7/21-23
横浜みなと映画祭2017「ユカがハマに帰ってくる～銀幕に映るヨコハマ～」
横浜シネマリン、他

山陽印刷（株）、他
A 9/30-10/28
会社まるごとギャラリー2017

栄区民文化センター リリス、他
H 7/1-1/31
ティーンズクリエイション展2017

海の公園、他
E 9/17-10/15
第19回金沢文庫芸術祭

G 7/3-1/27
さかえegaoフェスティバル
横浜市栄公会堂

ヨコハマアートサイト 2017参加団体
本誌で取り上げた場所

OPEN YOKOHAMA
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://www.y-artsite.org/　ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイト

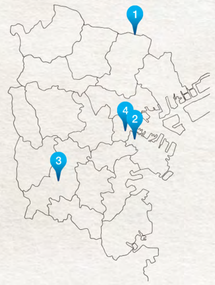
横浜の地域文化を考える・応援する

港北区・日吉の森庭園美術館

2017 Vol. 012

「特集　まちなかミュージアム」

中区・博物館 Café&Bar うぅふ



私設美術館には宝物が詰まっている

1 日吉に残されたかつての日本人を取り巻く暮らし

港北区・下田町、木々に囲まれた坂を登り、少し進んだところに「日吉の森庭園美術館」が静かに佇(たたず)んでいる。記念館、美術館、庭園の3つで構成されるのが特徴の施設だ。2015年には、築150年を超える田邊家の邸宅を活用した、田邊泰孝記念館が横浜市認定歴史的建造物に選ばれた。ここで暮らした泰孝氏は、田邊家の12代目当主で、地元の発展に深く貢献した人物だ。室内に飾られた人間国宝・芹沢銈介の絵「陽に萌える丘」は港北公会堂の緞帳に描かれているものの下絵で、泰孝氏が制作に携わる途中に買い取ったものだという。

田辺光彰美術館には国際的な彫刻家・田辺光彰(1939-2015)が手がけた、“農”をテーマにした作品が数多く展示されている。光彰氏は野生稲(やせいいね)(稲の原種)をモチーフにした作品を数多く制作し、そのうちのひとつ「THE SEED 2009-INSITU CONSERVATION」は、植物版ノアの箱船とも言われる、スヴァールバル世界種子貯蔵庫に収蔵されている。また、オーストラリアに残された遺作は、学芸員で光彰氏の長男・陵光さんが豪政府の助成金(豪日交流基金対象事業)を受け完成させ、今もなお現地で稲のルーツを伝え続けている。

こうした田邊家の生活を囲むのが、日吉の森庭園である。園内の池やベンチ、野生のシラカシの群生、金木犀といった木々は当時のまま保存され、来園者に下田町の生活を伝えている。このほか、園内にある防空壕には、小学生が見学に訪れ、戦時中の人々の様子を感じることも。一歩足を踏み入れると、かつて農村地帯だった土地の記憶が残されたこの場所に、失われつつある、自然と調和した豊かな生活が垣間見える。

2
野毛に響く 100年前の音楽

横浜でも屈指の飲み屋街、野毛。ひとたび歩けばつい寄ってしまいそうなお店がたくさんあるなかで、ひときわ目立つ外観の建物がある。「博物館 Café＆Barうっふ」だ。お店の扉は、なんとジャズ界の大御所ベニー・グッドマンの自宅玄関ドアを移転したもので、店内にはオーナー・IKUO三橋さん（P.1右下）が集めたアンティークオルゴールや自動演奏楽器のコレクションが並んでいる。IKUOさんは1971年から10年ほどフランスでパントマイムのパフォーマーとして活動。そこで本場のオルゴールに魅せられたのだという。「オルゴールは動くうちが華だ」と語るIKUOさん。「扉も、ステンドグラスも、みんな現地から持ってきたんですよ」。木箱でできたオルゴールの蓋を開け、ゼンマイを巻くと、100年前に作られた楽譜が演奏された。長い時間を経ても輝きを失わない音楽を野毛で味わう。

店内では、7メートルの吹き抜けの天井を使ったポールダンスや空中ブランコなども毎日のように開催されており、常連客も多い。IKUOさんがフランスで培った大道芸、今では野毛の重要な文化のひとつとなっている。

3
蓄音機が奏でる音楽 見ず知らずの人々が 耳を傾ける

戸塚区のとあるマンションに、わずか数十台しか生産されなかった英国の蓄音機「EMGマークⅦ」がある。日本には5台しかないというこの蓄音機の持ち主は、横浜蓄音機ミュージアムの館長・渡邉治雄さんだ。
「マークⅦは、お店に行って一台ずつ音を聴き比べた中から、即決したものなんです」。
自分の耳を信じて買ったというこの蓄音機は、渡邉さんの宝物。この一室はミュージアムとして解放されており（電話にて要予約）、約22台あるコレクションは多くの人の耳を楽しませている。

小型の蓄音機は、戸塚区民文化センター・さくらプラザで行われた蓄音機コンサートに持っていくこともあり、観客がレコードリストのなかから好きな曲をリクエストして、皆で音楽を楽しむことができる。会場には、家では聞けない古いレコードを持参してくれる人もいるそうだ。地域のケアプラザ等に出張した際は、音楽を聴いて昔のことを思い出し、音楽を口ずさむ人も。ここでしか聴けない音を、多くの人に聴いてもらいたいという渡邉さん。蓄音機が奏でる音が、人と人を繋げている。

4
紅葉坂をのぼって いつかの横浜に 会いに行く

壁一面に収められた青いファイルの背表紙には、それぞれ劇団の名前が付けられている。ここは神奈川県立青少年センター演劇資料室。1952年に設立した横浜演劇研究所が半世紀かけて収集した演劇資料と図書が並んでいる。

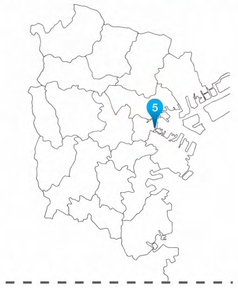
「公演のチラシなんて、見たらポイと捨てられちゃうでしょう。こうして保存しておかないと、この世のどこにもなくなってしまう」と話すのは横浜演劇研究所のメンバーであり、ボランティアスタッフの荒井賢一さんだ。「未来の人々もここへ来れば、100年前の横浜はこんな風だったのかと、いささかわかるでしょう」。

作品や資料は集まることで層を成し、失われた風景やその土地で暮らす人々の空気を感じさせる。

P.2　港北区・日吉の森庭園美術館
http://hiyoshinomori.com/
P.1/P.3左　中区・博物館 Café＆Bar うっふ
https://oeuf-yokohama.jimdo.com/
P.3中　戸塚区・横浜蓄音機ミュージアム
http://emgmark7.com/
（電話にて要予約）
P.3右　西区・青少年センター 演劇資料室

キックオフ・ミーティング Report

ヨコハマアートサイト 2017



【会場】BUKATSUDO ホール（西区みなとみらい）

5
ヨコハマアートサイト 今年度もいよいよスタート

6月7日（水）は、ヨコハマアートサイト2017の参加団体が集合し、キックオフ・ミーティングを開催しました。

今年度は27の団体が参加し、横浜市内のあちこちで文化芸術活動を行います。

事業進行にあたっての確認や伝達事項に続くのは、各参加団体による活動紹介の時間です。

それぞれの地域性が反映された特色ある取組の数々に、聞いている側もうなずいたり驚いたり。事業開始へ向けて期待が高まります。

さっそく他の参加団体とのコラボレーション企画が進行中だという話が出るなど、アートを通した新たなネットワークも生まれています。

個性豊かな活動紹介の後は、各テーブルによる情報交換と交流タイム。

活動を進めていく上での悩み相談や、現場の苦労話など、事業開始を目前に控えて、どのテーブルも盛り上がっている様子でした。

ヨコハマアートサイト2017の事業期間は2017年7月から2018年1月まで。参加団体の活動は随時ウェブサイトやSNS等で発信していきます。アートで地域にアプローチする27団体の活動にご期待ください。

また、今年度も横浜の地域文化に興味のあるすべての人へ向けて、アートと地域の関わりについて考える研修と交流の場「アートサイトラウンジ」を開催します。ふるってご参加ください。

今年度の新規参加団体は7つ。ストリートアートに着目したイベントや、映画にまつわるもの、舞台芸術などバラエティ豊かです。

地域文化の風景

6 変わらない風景の中で 人々が出会い 織りなすハーモニー

二村徹 館長
（泉区民文化センター テアトルフォンテ）

泉区の文化として、まず外せないのが農村歌舞伎である「いずみ歌舞伎」ですね。有名なので知っている方も多いんじゃないでしょうか。明治の終わり頃に市川花十郎というスター役者がいて、市外からも声がかかるほどの人気だったようです。逗子や横須賀にもよく呼ばれて行っていたとか。

その一座の功績を受け継いでいこうと1995年に地域の方々が立ち上げたのが「いずみ歌舞伎保存会」です。今では和泉小学校の児童に向け「和泉っ子歌舞伎」という体験授業を行ったり、ワークショップを行ったりと普及活動にも注力されています。

私はここにやってくる前は南阿蘇にいまして、そこでは農村文楽を守ろうという動きがありました。まちの規模は違いますが、泉区も緑が多いですし、風土や昔から続く文化が人々の中に息づいているというところは少し似ているかもしれません。

春に和泉川の川沿いを歩いたことはありますか？桜が本当にきれいなんですよ。お花見の後に、テアトルフォンテで休憩していく市民の方もいらっしゃいます。歩いていると気持ちよくて、観光地としてお勧めできるくらい素晴らしい散歩道だと思っています。

区内を歩いているとお気づきになるかもしれませんが、このまちは農作物の直売所がとても多いんです。この近くにも果樹園がありますし、泉区は市内で耕作農地が一番広いんですね。都市化していく今の横浜で、地に根を張った文化に寄り添っていけたらと思っています。

例えば、泉区に残る民話や言い伝えを題材にして紙芝居をつくっている「いずみ紙芝居一座」は、当館がコーディネートを行い一緒に区内の学校をまわるなど10年ほどのお付き合いになります。

泉区がおもしろいのは、のどかなだけではなくてガッツのある部分も持ち合わせている点でしょうか。いずみ中央駅前の音楽スタジオは24時間営業で、夜中もジャズやロックやさまざまなジャンルのバンドが活動しているんです。

スタジオを通りから覗いていて、昔のアンプが並んでいるから何かなと思って入ったら、そんな風に活発に利用されている場所だというので驚きました。今後は是非さまざまな協力をして音楽イベントを開催できたらと思っています。音楽家だけでなく、学生のバンド利用も多いようです。

当初は演劇の専門館としてスタートしたテアトルフォンテですが、今は幅広い方々に活用していただけるようアピールしていかなければと気を引き締める一方、いつかバンドの大会を企画してみたいと夢が膨らみました。田園風景を活かしてコンサートをするのも楽しそうですね。これからも、まちと人、それぞれの魅力が掛け合わさる時間を生み出せたらと思います。

事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

7 4月2日（日）

南区・大岡川沿いに開催される桜まつりへ。肌寒いので温かい飲み物を求めてヨコトリサポーター"ハマトリーツ！"によるブースにて甘酒を購入。いろんな種類のジャムやスパイスを混ぜてカスタマイズできるというので、マーマレードとシナモンを足す。通りは多くの人でにぎわい、どこからか陽気な演奏も聞こえてくる。

8 5月17日（水）

横浜美術館にて「ファッションとアート　麗しき東西交流」展。日本と西洋、それぞれが互いに抱いている憧れがそのまま反映されたファッションアイテムの数々。着物風のガウンや、美人画に描かれる指輪などのアクセサリー。ファッションとアートの関係性についても考えさせられる。

9 5月28日（日）

KAAT神奈川芸術劇場での展示「詩情の森――　語りかたられる空間」を見てから、横浜開港資料館「横浜・地図にない場所～消えたものから見えてくる、ハマの近代～」へ。かつての路線図を見て、今との駅名の違いを見つけるのが楽しい。家族連れも多く、順路の終盤にある、地図を見比べての間違い探しコーナーが人気の様子。

10 5月31日（水）

バスに乗って第33回全国都市緑化よこはまフェア・里山ガーデンへ。昨年ヨコハマアートサイトで採択された、森を会場にした野外美術展でおなじみの「GROUP創造と森の声」の紹介を見学。森ラボ2016「横浜の森美術展9」といったこれまでの活動記録や、実際の作品も展示されていた。ワークショップ「DanceダンスDance」や森とアートに親しむイベントも。

ヨコハマ アートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
（ＳＴスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜ＳＴビル 208
（ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL:045-325-0410
FAX:045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite
ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.012

発行　ヨコハマアートサイト事務局
編集　ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
テキスト　小川智紀　池田友実　加納美海
デザイン　相澤事務所
撮影　福井裕子
印刷・製本　合資会社 三島印刷所
発行日　2017年6月30日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。